

**国分寺市新庁舎建設基本構想(案)へのパブリック・コメントに係る
市民説明会の概要**

日時	場所	参加者数
平成30年12月20日(木) 午後6時30分～8時	市役所書庫棟会議室	8人
平成30年12月22日(土) 午前10時～11時30分	ひかりプラザ	9人
平成30年12月26日(水) 午後2時～3時20分	リオンホール	8人

1. 国分寺市新庁舎建設基本構想(案)を配布して説明
2. 意見提出方法について説明
3. 質疑応答概要(主なもの)(質問・意見…○, 質問に対する回答…→)

【質問】

- 泉町所有地への移転の場合、西国分寺駅北口まちづくりと関連させることは考えていないのか。
→建設候補地は決まっていないので具体的な検討はしていないが、移転となった場合はまちづくりの視点も変わってくると思われる。
- 泉町所有地については、市が活用することについて東京都の確約はあるのか。
→基本構想に建設候補地として記載したことは情報提供している。
- 建物の高さや敷地等の制限下でもスペースを確保するために、地下の利用は考えていないのか。
→地下利用には費用がかかるが、地下の利用を含めた新庁舎の具体的な検討はこれからである。
- 現庁舎用地での建替えにおける災害対策本部機能の移転については、仮設庁舎ではなく市民スポーツセンターを活用できないのか。
→可能性は具体的に検討してみないと分からないが、仮移転だとしても、非常用発電設備等の必要な機能を備えられるかどうかとも重要である。
- 高齢化社会に向けて、アクセス面での対策等は何か検討しているか。
→市民アンケートでも庁舎へのアクセスを重要視する意見は多く、仮に移転となった場合にはぶんバスのルートの再検討などが必要になると思われる。
- 新庁舎に必要な延床面積が出ているが、それほど必要なのか。
→新庁舎で業務を行うと想定される職員数や分散した庁舎機能の集約を考慮した結果、必要な規模であると認識している。ただし、今後適切な新庁舎の規模については精査していく予定である。
- 建設費がほとんど同じなのはおかしく、工事が容易な泉町所有地の方が安くなるはずではないのか。

→想定事業費の建設費は他事例から算出した㎡当たりの単価で算出しているのですが差が出ていないが、今後、事業費はさらに精査していく予定である。

○埋蔵文化財調査にはどのくらいの期間がかかるのか。

→基本的に調査自体の期間は半年から1年程度と思われる。

○現庁舎用地と泉町所有地それぞれの建物の高さ制限はどれくらいか。

→一般的には、まちづくり条例では20m、特別な場合は25mとする制限がある。また、地区計画等によるルールが優先されることもある。

○新庁舎整備基本計画の策定の時には、有識者や市民を集めた検討委員会のようなものを立ち上げる予定はあるのか。

→基本計画の策定に向けた具体的な取り組みは未定であり、基本構想や今回のパブリック・コメントの意見等も踏まえて検討していく。

【事業の進め方に関する意見】

○同規模の他市と比較して庁舎の状態が悪いこと、公共施設適正再配置計画の具体化につながることで、防災の観点等の理由から新庁舎建設は早急に進めるべきである。

○更地である泉町所有地に新庁舎を建設しながら、その間に書類等を整理して、スムーズな移転と移転後の事務の最適化につなげるべきである。

○PFIのような民間の資金を使って建設すると資金の流れが分かりにくくなるので反対である。

○恋ヶ窪地域は移転に対する不安があり、先に建設地を決めるだけではなく、市民が安心できるようにもっと広く検討してもらいたい。

【事業費に関する意見】

○想定事業費について、泉町所有地への移転の場合は現庁舎用地の活用が可能であり、公平に比較するならば資産の増加として費用から差し引くなどして反映するべきであり、意図的に現庁舎用地での建替えを有利に見せていると感じる。

○事業が進むにつれて費用が膨らむ不安があり、そうならないように考えていくべきである。

○想定事業費は出ているが、仮定が多く決まっていない段階で議論しても意味がないので、逆にどこまで市として事業費を負担できるのかを示し、その中でいかに効率的にするのかを考えるべきである。

【新庁舎の施設・機能に関する意見】

○地下熱や雨水等の活用も今後検討してもらいたい。

○新庁舎には生涯学習施設として中央公民館・図書館を併設してほしい。

○新庁舎の屋上に天体望遠鏡を設置して宇宙開発発祥の地をPRしてもらいたい。

【出張所に関する意見】

○集約化によって市民が集まり窓口の待ち時間が長くないよう、出張所も並行して整備してもらいたい。